

建設常任委員会

《長崎県諫早市》

省エネ等住宅リフレッシュ事業

諫早市では平成二十五年度から県補助金を活用し、一定の性能向上を図る住宅リフォーム工事に對して支援を行っていました。初年度は「バリアフリー・安全型」「省エネルギー型」「防災型」の三種類のリフォームに對してそれぞれ上限を設定することで、最大八十万円の補助を受けることができましたが、翌年度からはより多くの方が補助を受けられるよう事業内容を見直し、予算額は同程度ながらも、補助の上限額を低く設定した結果、対象件数は増えたとのことでした。ただし、今年度からは国の「省エネ住宅ポイント制度」との重複を避けるため、バリアフリー・安全型リフォームのみを対象としたとのことでした。

一方、諫早市独自の取り組みとして、リフォーム

工事にあわせて下水道へ接続する場合にも加算補助をしていました。当市においても同様の事業を行っていますが、周知方法や独自加算の導入について検討し、独自性のある事業へと発展させることができるのではと感じました。



長崎県諫早市にて

《長崎県長崎市》

まちづくりプロジェクト

長崎市では来る新幹線開業を見据えた駅周辺の再開発等、今後十年間でのまちの形が大きく変わろうとしている中、歴史的な文化や伝統に培われた中心部においても周辺

各整備事業を上手に連携させながら賑わいの再生を図ろうとする一連の事業の枠組みとして「まちづくりプロジェクト」をスタートさせました。この計画は、①各エリアの魅力づくり、②回遊性を高める軸づくり、③市民などの地域力によるまちづくりの三点で構成されています。中心市街地活性化や都市再生推進事業など、各部署で行っているさまざまな事業を横断的に取り込み進めている計画なので、社会情勢等により修正が必要となったとしても、随時追加修正を行うことを計画の一部としてとらえることで、常に進化する計画と位置づけていることが最大の強みに思えました。

地方創生が叫ばれている現在、まちの魅力づくりも大変重要な要素と感じている中での視察でしたので、これからの都市計画を描く上で参考となる有意義な研修でした。

森林・林業・林産業活性化促進

十和田市議会議員連盟

林活議連の視察研修を

七月十五日に実施した。目的の地は岩手県紫波町と紫波町農林公社で、研修項目は以下の三項目。紫波町の面積約二万三千九百ヘクタールのうち、森林面積は一万三千九百ヘクタールで町の全面積の五八%になっています。しかし、山林所有者の育林の放棄で松くい虫の被害林が多くなっている。

研修の項目

○紫波町における木質バイオマス利用
製材所から排出される製材端材、間伐材等（主に松くい虫の被害木）を活用して木質ペレットを製造し、公共施設で導入しているペレットボイラーやペレットストーブを中心に熱源として供給していた。

○エネルギーステーション見学

研修の感想

木質バイオマスはチップを燃料にした熱利用で、燃焼した熱量の七〇%を利用できるが、木質

バイオマス発電を併用することで、残りの熱量三〇%も利用できる。紫波町では出力三十キロワットで一千万円の発電所を検討したが、電気事業法のほか発電所を稼働するために二十四時間常時燃焼させなければならず、八時間三交代で発電所を監視するため、人件費の課題で導入をあきらめた。

しかし、十和田市で木質バイオマスの熱利用と発電所を誘致する際は、調査研究する必要がある。（文責 久慈年和）



説明を受ける議員